

# 第35回 人と海のフォトコンテスト 「マリナーズ・アイ」展 総評

審査員 塩崎 亨

2024年5月、2日間にわたり第35回マリナーズ・アイ展の審査が実施されました。応募点数3,026点(応募作品枚数3,528枚)、応募者数888名の力作すべてに目を通し、ときに議論を重ねながら計120点の作品を選出しました。まずは応募してくださったすべての方々に御礼を申し上げたいと思います。そして入賞・入選された方たちに賛辞をお送りしたいと思います。

前年とくらべ1割ほど減りましたが、応募作品数の増加にともない審査方法もすこしずつ改善が試みられています。今回は35回目にして初の3名での審査でした。審査委員長の小松健一先生の突然の体調不良を考慮し、1次審査を「フォトコン」編集長の藤森邦晃氏とわたくし塩崎亨が担当し、2次審査は3名で入賞・入選作品を決めていく流れとなりました。長年に渡りマリナーズ・アイ展に携わってこられた小松氏、雑誌の編集で多くの写真と向き合っている藤森氏、それぞれの背景や個性は異なるものの、選出される作品の9割以上は一致していたと思います。審査にかかった日数は2日間ですが、その前後にも多くのスタッフが多くの時間をかけ準備してくれている文化事業です。それを35年続けてきてくれたことに深く感謝するとともに、今後も末永く続けていってほしいと願います。

「人と海」という題材で長きに渡り続いてきたこの公募展には、「海」という大きい題材があります。広い写真表現の中で「海」というだけでも絞られた題材だと思っただけで、とんでもありません！漁業や船舶に従事されている方々、港や漁港、風景に夕景夜景、旅の景色、祭りや祈り、マリンスポーツや海洋生物…と書ききれないほど多様なアプローチがあります。

そして今回、大賞を受賞されたのは初の10代の方でした。19歳の熊倉颯さんの作品「旅路」はとても静かで、船に乗ったことがある方なら一見見慣れた景色…と思いきや実は他の誰の応募作品にも似ていない個性がありました。この個性が、公募展という数多くの写真作品が集まる中でとても輝きを放っていました。

写真を撮る行為はとても楽しく(ときに苦しい時もありますが…)老若男女問わず作品を生み出すことのできる芸術です。最年少は6歳、最高齢はなんと95歳！スマホの存在も大きいと思いますが、こんな幅広い年齢層が楽しめるジャンルということにあらためて驚かされました。

自分の大切な作品が誰か他の方にジャッジをされる場に出すということは、とても勇気がいることだと思います。もちろん私自身もその経験を多々してきたため、審査する側を任せられたからには真剣に挑みました。今回残念ながら入賞・入選できなかった中にも心に残る作品が多数ありました。120点に絞らなければならないため、泣く泣く選外となってしまった作品は今でも心に残っています。

しかし撮影した写真を自分以外の誰かに、家族や友人にとどまらず会ったことのない人の目に触れさせていくことは、その写真のもつパワーが最大限に発揮できるチャンスにもなります。今後も恐れず自身のもとから作品として旅立たせてください！

最後になりますが、今年も入賞・入選120点の作品を展示する写真展が、横浜(7月2日～8日)を皮切りに、神戸(8月7日～10日)、福岡(9月18日～22日)と順次開催予定です。

また各会場では「海の写真道場」と称した作品解説が横浜(7月6日:14時～:小松氏と塩崎)、神戸(8月8日:14時～:小松氏)、福岡(9月19日:14時～:小松氏)で予定されています。無料でご自由に参加できますので、ぜひ潮風香る会場に足を運んでみてください。みなさまにお会いできるのを楽しみにしています。

(2024年6月5日記)